

喪主挨拶例文

* 喪主（子供）のあいさつ — 父の葬儀 —

本日、お寒い中、父の葬儀にご参列頂きまして誠に有難うございました。父は人一倍健康には自信を持っておりましたが、昨年11月10日急に倒れて市民病院に入院致しました。意識はしっかりしておりましたが、左半身が不自由でその上言語障害の後遺症が残りさぞ辛かったと思います。家族交替で看病して参りましたが、遂に病には勝てず、1月21日午前7時15分、市民病院におきまして享年87才の生涯を閉じました。父の生前中は皆様方に大変お世話になり感謝致しております。今日はまた、温かくお見送り下さいまして父も喜んでいてございましょう。この場をおかり致しまして、お礼を申し上げます。

ありがとうございました。

* 喪主（子供）のあいさつ — 父の葬儀 —

皆様、本日は雨の中を父、雅夫（仮名）の葬儀並びに告別式にご参列頂きまして誠に有難うございました。遺族を代表致しまして、お礼を申し上げます。思えば父が病気で入院致したのは、ちょうど一年前の梅雨どきで、やはり今日のような雨の日でございました。入院以来いつも口ぐせのように家に帰りたい、家に帰りたいと申しておりました。それだけに私共も何とかもう一度元気になってもらいたいと思い、看病を続けて参りました。しかし、高齢ゆえそれも叶わず6月29日早朝、眠るように82才の生涯を閉じました。本日、こうして多くの方々にお見送り頂き父もさぞかし喜んでいて存じます。ここに改めて皆様から頂きましたご厚情に厚くお礼を申し上げます。今後共、亡き父同様のおつきあいとご指導の程、宜敷くお願い申し上げます。皆様、誠に有難うございました。

* 喪主の（子供）のあいさつ — 父の葬儀 —

皆様、本日は公私何かとお忙しいところ、ご会葬下さいまして有難うございました。父は創業者として85才の天寿を全うし、幸せな人生を閉じました。思えば父は〇〇県の〇〇村から青雲の志を抱き15才の時〇〇市に出て参りました。技術を身につけ昭和12年、印刷業を創業しました。しかし、20代半ばの時大病を患い、それが原因で体に後遺症が残り大きなハンディを背負うことになりました。それでも不屈の精神でよくここまで頑張って参りました。その間には病氣、敗戦、倒産という言葉では尽くせない辛酸を味わいました。しかし、今日がありますのも父の努力と皆様のご協力の賜と心から感謝致しております。父は自分が苦勞しただけに、社会福祉に殊のほか気を配りいろいろと協力をして参りました。父の訓えである「堅実と誠実」をモットーに頑張って参ります。

皆様、今後共変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。今日は本当にありがとうございました。

* 喪主（子供）のあいさつ — 母の葬儀 —

この場をお借り致しましてご会葬頂きました皆様に一言お礼のごあいさつを申し上げます。

本日、何かとお忙しいところ、母の告別式にご会葬下さいまして有難うございました。母は持病の肝臓病が悪化し、昨年の秋、〇〇総合病院に入院。以来家に帰りたいと言い続けたまま、ついに果たせず、せみしぐれに送られるように8月10日4時30分、静かに息を引き取りました。76才の生涯でした。ここに改めて皆様から生前頂きましたご厚情と、入院中のお見舞いに対して、お礼を申し上げます。

これからも変わらぬおつきあいとご指導戴きますよう、よろしくお願い致します。

温かいお見送り誠に有難うございました。

* 喪主（子供）のあいさつ — 母の葬儀 —

本日は、あいにくの天気の中、参列頂き誠に有難うございます。

母も深く感謝致していることと存じます。母は2カ月前、風邪をこじらせたのが因で肺炎を併発し〇〇病院に入院致しました。その後食事もすまなくなり病院の先生方の懸命の治療も空しく4月13日午後0時15分、85才の生涯にピリオドをうちました。天寿を全うしたと申すべきかもしれませんが。思えば、母には苦勞ばかりかけ、あと3年でも5年でも長く生きてもらって親孝行がしたかったと悔いが残ります。これからは母の教えをしっかりと守っていくのが親孝行だと思っております。

皆様、今後共変わらぬご交誼を頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。本当に有難うございました。

* 喪主（夫）のあいさつ — 妻の葬儀 —

皆様、何かとお忙しい中ご会葬下さいまして、有難うございました。生前、親しくおつきあい下さいました皆様に、お見送り頂き妻佐代子（仮名）も喜んでいて存じます。今年3月妻は体がだるいということで病院で検査したところ、肝臓病と診断され4月2日〇〇病院に入院。以来、私と子供達4人が交替で看病を続けて参りました。入院中は自分のことより、子供達のことを気がかりで、1日でも早く家に帰りたいと申しておりましたが、薬石の功も空しく9月5日亡くなりました。享年48才でした。3人の子供達を片づけるまで頑張るといったただけに、さぞかし心残りだったろうと思うと無念でなりません。この上は、妻の気持ちに報いるためにも、私が頑張って子供達を社会へ送らなければと、心に誓っているところでございます。皆様、今後共よろしくお願い申し上げます。有難うございました。